



## くもの罫や数多の星をとらえたる

森岡香代子

ふと軒先を見ると蜘蛛の巣がある。その向こうには星が光っている。蜘蛛の罫越しに星空を見ての実感句。スケールの大きな想像力が愉快。



## パリッパリに乾くジーンズ夏旺ん

柳村光寛

乾く速さは瞬間冷凍ならぬ瞬間乾燥ともいうべきで、板のように堅くなる。夏の陽射しの強さを乾くジーンズに実感したことが滑稽句になった。



## 押しだされ水からくりの心太

井口夏子

ところてんが小さな箱から押し出されて出てくるのは子どもの目には不思議なことで、手品のように思えたものだ。まさに「水からくり」である。



## 雷を避けて通れぬ避雷針

桑田愛子

雷を真っ先に受け止めるのが仕事だが、本当は避雷針だって雷は怖いのだ。逃げ場がない。避雷針の気持ちを分かってくれる俳人は初めてだね。



## 放課後のいの一番のかき氷

久我正明

何かを頑張った後のご褒美の味は格別である。「いの一番」に、楽しみに思う気持ち、かき氷の美味しさ、午後の暑さ等の色々が凝縮されている。



## なすび 性格の違う茄子の光り合う

鈴木和枝

茄子に人間を投影した句とも言える。妙に茄子が人間っぽくて可笑しい。茄子達は同級生か兄弟か。きっと仲良しで時々喧嘩もするのだろう。